Reio 7530ciatea Reposi	tory of Academic resouces
Title	米国における「患者移動介助技術」に関する基礎看護学テキストの分析
Sub Title	Analysis of fundamentals of nursing textbooks regarding 'patient moving techniques' in the United States
Author	山本, 亜矢(Yamamoto, Aya)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)
JaLC DOI	
JaLC DOI Abstract	【目的】わが国における患者移動介的技術は、患者の持ち上げや抱え上げが基本であり、1945 年に米国で提唱された「ボディメカニクス」によって行うことが看護基礎教育から現在も教示されており、いまだ智麗師の腰痛有許率は高い。しかし、現在の米国では2003 年に患者の参数小助技術に関する科学の根拠に基づイドライン「Safe Patient Handling and Movement(以下SPHM)」が開発され、看護師の筋骨格系障害の発症率が減少した。そこで、SPH Mが導入されている米国で使用されている基値音響やテキストにおける患者を動作が良好の内容について分析を行い、わが国の看護基礎教育に必要な患者移動介助技術について検討する基礎資料を得ることを本研究の目的とした。 【方法】Amazon.com International Around the World Unit StatesよりFundamentals of Nursingをキーワードに検出、5版以上改訂されている図書で最新版の教料書の件を抽出し、「ボディメカニクス」「安全な患者移動介助技術」に関する記述は内容の検討を行った。 フス」「安全な患者移動介助技術」に関する記述内容の検討を行った。 カが国で使用されている。看護事がやヘルスケアスタップに身体損傷を引き起こす」ことが示されていたボライメカニクスは、看護師やヘルスケアスタップに身体損傷を引き起こす」ことが示されていた。カが国で使用されている。看護基礎教育の段階から人間エ学に基づく適切な身体の動きを取り入れる必要があると考える。安全な患者移動分助技術に「人間エ学に基づく適切な身体の動きを取り入れる必要があると考える。安全な患者移動介助技術に「人間エ学に基づく通切な身体の動きを取り入れる必要があると考える。安全な患者移動介助技術に「人間エ学に基づく通りな身体の動きを取り入れる必要があるとあえる。安全な患者移動介助技術に「人間エタルで表現し、看護として示された、米国においては、看護学校のカリキュラムにもSPHM の複念を違えし、看護として示された。米国においては、看護学校のカリキュラムにもSPHM の複念を違えし、看護とはして、人間工学的な介助方法を効率的に習得、実践するための教育が行われていることが示された。 ○り時ではいまいましまが良いまの主きを取り入れること、SPHM技術の活用が患者移動介助技術について検討すべき事項が確認された。 ○り時ではいまいましまが良いまの主意を取り入れること、SPHM技術の活用が患者移動介助技術にの基本を認り入れることが示された。これにより、わが国の看護基礎教育に多な患者移動介助技術に基本であることが示すれた。これにより、わが国の看護基礎教育に必要な患者移動介助技術に基本であることが示すれた。これにより、わが国の音識を確認された。 「おはいまのまのまりました。1940年のよりではいまがままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のまりによれた。1940年のままれた。1940年のまれた。1940年のままれた。1940年のまれたまれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のまたまれた。1940年のままれた。1940年のままれた。1940年のまれたることが、1940年のまれた。1940年のまれた。1940年のまたまれた。1940年のまたまれた。1940年のまれたまれた。1940年のまれた。1940年のまれた。1940年のまれたまれた。1940年のまれた

	'using a lift team.' In the US, the concept of SPHM was introduced into nursing school curriculum, and it has been confirmed that nursing students are educated so as to effectively learn, and practice, ergonomic assistance methods.  Conclusion: We found that basic nursing science textbooks in the US do not include a definition of body mechanics, but include physical movement based on ergonomics, and note that the use of SPHM techniques is the standard technique for assisting in patient moving techniques. Therefore, we confirmed that techniques required to assist in patient moving techniques are a matter that should be examined in basic nursing education in Japan.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000008-20200164

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2020 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	看護医療学部	職名	専任講師(有期)	補助額	100 (C) ∓₽
柳光1\衣有   	氏名	山本 亜矢	氏名 (英語)	Aya Yamamoto		   

### 研究課題 (日本語)

米国における「患者移動介助技術」に関する基礎看護学テキストの分析

# 研究課題 (英訳)

Analysis of fundamentals of nursing textbooks regarding 'Patient moving techniques' in the United States

## 1. 研究成果実績の概要

【目的】わが国における患者移動介助技術は、患者の持ち上げや抱え上げが基本であり、1945 年に米国で提唱された「ボディメカニクス」によって行うことが看護基礎教育から現在も教示されており、いまだ看護師の腰痛有訴率は高い。しかし、現在の米国では 2003 年に患者の移動介助技術に関する科学的根拠に基づくガイドライン「Safe Patient Handling and Movement(以下 SPHM)」が開発され、看護師の筋骨格系障害の発症率が減少した。そこで、SPHM が導入されている米国で使用されている基礎看護学テキストにおける患者移動技術の内容について分析を行い、わが国の看護基礎教育に必要な患者移動介助技術について検討する基礎資料を得ることを本研究の目的とした。

【方法】Amazon.com International Around the World Unit States より Fundamentals of Nursing をキーワードに検出、5 版以上改訂されている図書で最新版の教科書 3 件を抽出し、「ボディメカニクス」「安全な患者移動介助技術」に関する記述内容の検討を行った。

【結果・考察】ボディメカニクスの定義の記載は認めず「看護実践で歴史的に使用されていたボディメカニクスは、看護師やヘルスケアスタッフに身体損傷を引き起こす」ことが示されていた。わが国で使用されているすべての基礎看護学テキストは、いまなおボディメカニクス中心の患者移動技術が示されている。看護基礎教育の段階から人間工学に基づく適切な身体の動きを取り入れる必要があると考える。安全な患者移動介助技術は「人間工学の原則に基づいた安全な方法に置き換えること」「SPHM 技術の活用は、患者の運動や介助、移動における最適な実践の基準」「人間工学を活用して操作される専用の介助機器」「lift team の利用」が効果的なアプローチとして示された。米国においては、看護学校のカリキュラムにも SPHM の概念を導入し、看護学生に対しても、人間工学的な介助方法を効率的に習得、実践するための教育が行われていることが確認された。

【結論】米国の基礎看護学テキストには、ボディメカニクスの定義の記載はなく、人間工学に基づく身体の動きを取り入れること、SPHM技術の活用が患者移動介助技術の基準であることが示されていた。これにより、わが国の看護基礎教育に必要な患者移動介助技術について検討すべき事項が確認された。

#### 2. 研究成果実績の概要(英訳)

Objectives: In Japan, the technique of assisting patient moving techniques essentially involves moving and lifting patients. Although nurses are presently taught to do so according to 'body mechanics,' as proposed in the United States (US) in 1945, the rate of lower back pain complaints remains high among nurses. However, in the US today, 'safe patient handling and movement (SPHM)' guidelines have been developed based on scientific grounds regarding techniques to assist in patient moving techniques. Such guidelines have reduced the present incidence of musculoskeletal disorders in nurses. Therefore, the purpose of the present study is to analyze content pertaining to techniques related to assisting with patient moving techniques. In basic nursing textbooks used in the US where SPHM has been introduced. This is done with the aim of obtaining basic data to examine techniques to assist in patient moving techniques, which are required in basic nursing education in Japan.

Methods: Upon searching the Amazon.com website using the key words 'fundamentals of nursing,' we extracted three of the most recent textbooks among those books with five or more revised editions. We then examined the content descriptions regarding 'body mechanics,' and 'safe techniques to assist in patient moving techniques.'

Results and discussion: We found no descriptions that defined body mechanics, but found that 'body mechanics that are historically used in nursing practice cause debilitating injuries to nurses as well as healthcare staff.' All basic nursing studies textbooks used in Japan still present techniques to assist in patient moving techniques that are based on body mechanics. It is thought that appropriate physical movement based on ergonomics should be incorporated during basic nursing education. It was found that, in safe techniques for assisting in patient moving techniques, effective approaches include 'shifting to safe methods based on ergonomic principles,' 'using SPHM techniques, which are the most suitable practice standards for patient movement, assistance, and repositioning,' 'using specialized assistance devices that are operated using ergonomics,' and 'using a lift team.' In the US, the concept of SPHM was introduced into nursing school curriculum, and it has been confirmed that nursing students are educated so as to effectively learn, and practice, ergonomic assistance methods.

Conclusion: We found that basic nursing science textbooks in the US do not include a definition of body mechanics, but include physical movement based on ergonomics, and note that the use of SPHM techniques is the standard technique for assisting in patient moving techniques. Therefore, we confirmed that techniques required to assist in patient moving techniques are a matter that should be examined in basic nursing education in Japan.

3. 本研究課題に関する発表							
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)				